

カトリック六甲教会 教会報

2012

4

No.484

希望のうちに



主任司祭 松村信也

今年度は、4月1日に受難の主日（枝の主日）を迎え、聖週間で始まるという身の引き締まる年度の開始です。そして、7日は復活徹夜祭、8日主のご復活となります。

この充実した年度の始まりである4月の花といえば“さくら”です。記念すべき新しい年度の門出を祝うと同時に、主のご復活を祝う最もふさわしい“喜びのしるし”として、“さくら”が教会の庭にも咲き乱れています。“さくら”舞うこの季節、老若男女、肩をより添いながら、明日に大きな夢と期待を載せて歌い、語るその姿は、また“希望のしるし”でもあります。

しかし昨年3月、東日本で起きた大震災は、大勢の被災者の方々へ精神的、身体的に癒されることのない大きな傷痕を与え、さらに彼らの町から喜びと希望のしるしである“さくら”の木まで根こそぎ奪い取ったのです。また町や村の復興は、遅々として進展しない現実を知るとき、正直、怒りと苦痛に追いやられ、期待するどころか絶望を感じさせられます。あの日以前の被災者の方々の過去は、すべて奪い取られてしまった。取り戻したくても、取り戻せない所へ捨て去られてしまった。今も被災者の方々は、抱えきれない悲嘆を負わされ苦しんでいます。あの日を境に東日本の方々の人生は一転し、最悪の状況であるにもかかわらず、只ひたすらに明日を信じ“今日一日やれることだけ”と一所懸命働いておられる姿は、キリストの十字架への道を思い起こされます。

忍耐強く生きる被災者の方々は主は、見捨てることなく、必ず御心のうちに甦らせて下さることを信じています。そのために十字架に架けられ、死んで復活されたのです。

休むことなく続く被災者の方々の“今日一日やれることだけ”、この言葉に込められた願いを、しっかりと受け止め皆でつないでいく、それが復活の始まりです。

被災地から離れた者に託されたこと、それは東日本の方々に希望を届けることです。現地でのボランティア活動、彼らのために毎日祈りを捧げること、彼らの町や村の復興のための募金活動など、先ず、つながることから始めましょう。それが支援であり、“人と人とのつながり”であり、彼らと痛みを分かち合う共生と復活の始まりです。

幸いなるかな、私たちの共同体には、素晴らしい地区会を持っています。この地区会の“つながり”をさらに、もっと大きく強くする為に東日本の人たちと共生しながら、さらなる協働の輪を広げましょう。それが地区会の目指す暖かい、住みやすい、暮らしやすい“人と人とのつながり”を社会に向けて発信することだからです。

見えてこない明日だけど、誰も知らない明日だけど、何もしなければ何も変わらないのです。みんな愛と勇気を持って“つながり”を大切に、一人ひとりの真心で希望の光を運びましょう。

Happy Easter!

忘れないで！

東日本の被災地から（１）

2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0三陸沖で巨大地震が発生した。それから数十分後、青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉県に渡って大津波が押し寄せた。特に、三陸海岸から福島・茨城・千葉県にまで及ぶ沿岸地域にかけて10メートル、又それ以上の大津波が町や村を襲った。大津波は、沿岸地域に住んでいた大勢の人々の命まで奪い取った。

この巨大地震発生から一年が経った。しかし被災地は、今も発生当時と変わらない状態のままの地域であったり、ほとんど何も残っていない更地のような町や村であったり、全く人の気配のない町や村であったり、仮設住宅の立ち並ぶ以前とは全く様子の異なる町並みの地域であったりと、広範囲に渡り殺伐とした被災地が目に見え込んでくる。

これから一年間、六甲教会の教会報は、東日本を忘れない為、彼らのために心からの支援を続けていく為、また私たち教会共同体のコア(中心)となる地区会を、より良く育てていく為に、毎月このコーナーを設けることにした。

ここに掲載する記事は、東日本の被災地に関するものをレポートし、一人でも多くの方々に東日本の被災地の現実を理解していただき、彼らへの支援と同時に、彼らを通して私たち人間にとって大切なことを学んでいく場にしたい。



さて大震災から丁度一年を迎えたその時、NHKの報道番組の中で被災地の仮設住宅に住む老人たちへのインタビューがあった。そのインタビューでは、人はどれほど大勢の人々によって支えられ、生かされているかを教えられる内容の話であった。

年老いた一人の女性にマイクが向けられた。その老婆は、夫と娘を津波で亡くしていた。ボランティアの方が、その老婆を仮設住宅の集会場にみんなが集まっているから、そこへ連れ出そうとしたが、老婆は頑なに拒否した。その理由は「これまで当たり前だったことが、当たり前でなくなった。普通の生活だったのに……。どうしてこんな生活を……。日常生活の普通のことが出来なくなった。」と終始、肩を落としてうつむきながら、ポツリポツリ話された。「人のいるところに行きたくない。もう忘れたいと思うのに、人に会うといろんなことを聞かれる。聞かれると思ひ出すから苦しくなるし、泣きたくなる。だから行きたくない……。涙がもう出ないんだ。」と言っていた。

カメラは被災地から遠い山間に出来た仮設住宅へ移動した。津波で仕事を失い、妻も亡くした一人暮らしのお爺さんが、山の中の小さな12棟だけの仮設住宅に住んでいた。彼はとても内向的で人付き合いの下手なお爺さんだった。そのお爺さんが、なにやら呂律の回らない口調で話し出した。「全然、誰も知らない一人きりの暮らしだ、支えてくれた妻も親友も亡くなった。楽しみもなくなった。自分の人生も終わったんだ。死ぬのを待つだけだ！」と言ってお酒を飲んでた。一人息子が横浜から帰った。「息子だけが頼りだが、迷惑をかけたくない。俺は一人で死ぬからいい」と言って、また酒を飲んだ。酒は日毎に増え続けた。彼は彼なりに悲しみ、苦しみを忘れよう、忘れたいと思って“酒”で誤魔化していた。酒が身体を痛めることも承知で、毎日酒を飲むと言っていた。息子は「俺が面倒見るから心配するな」と言ったが、酒を止めよとは言わなかった。これを“ヤケ酒だ”、と言えるのだろうか。もし彼が自分だったらどうするだろうか。こんな悲しみ、こんな苦しみを、どのように乗り越えることが出来るのだろうか……。



最後に比較的元気の良い老婆が映し出された。笑みを浮かべながら「仮設住宅は二年間だからさ、終わったら以前住んでいたところへ戻って、これと同じ（仮設住宅）小さな家でいいから、母さんのために建ててくれ」と自分の息子に向かって言った。息子はちょっと困ったような顔つきで「母さん！同じところへ戻っても、誰も戻ってこないから無理だって！……戻ったって母さん一人だよ。」そう息子に言われて、黙って「……」うつむいて涙した老婆の姿を見せられ、胸が張り裂けそうになった。

かつて親から言われていた言葉を思い出した。「どんな事があっても、女性、子ども、年寄りを泣かせてはいけないよ……」と。

今、私たちは東日本の大震災を通して、人間はいかに生きるのか、戴いたこの命を、限りあるこの命をどのように生かさせて戴くのかを、真剣に問われているのではないか。あなたは、この問いかけにどのように答えますか……。

主任司祭 松村信也

お知らせ

昨年度まで二年間に渡って続けてきました「キリスト教の基礎知識シリーズ」は、今年度お休みにします。それに代わって今年度は、「**忘れないで!**（東日本の被災地から）」をシリーズで寄稿します。

2012 年度奉仕者

2012 年度の集会祭儀司式、聖体授与の臨時の奉仕の務めに、次の方々が任命されました。任命を受けた方々は、仕える者としてご奉仕して下さることをお願いします。

集会祭儀司式者（敬称略）：Sr. 小沢、大倉、飯塚、古泉、佐久間、

志田、高橋、堤、藤井、藤原（以上 10 名）

聖体授与の臨時の奉仕者（敬称略）：阿部、飯塚、牛尾、大倉、

沖田、Sr. 小沢、鍵山、川合、木暮、木暮、北上千、

古泉、河野、佐久間、志田、高橋、橘、詫、

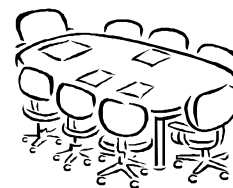
堤、中村、福島、藤井、久本、藤原、藤原、船井

（以上 26 名）



----- 2011 年度第 5 回小教区大評議会議事録 -----

- ◆ 日 時 : 2012 年 3 月 18 日 (日) 11:15~12:30
- ◆ 場 所 : 第 4 会議室
- ◆ 出 席 者 : 松村主任司祭、評議会役員及び課題の提案者他



1 報告事項

(1) 3 月神戸地区宣教司牧評議会報告 (河野)

・地区長挨拶

-福島子供招待プロジェクト企画書が提案された。8 月 2 日 (木) ~8 日 (水) カトリック松木町教会及び野田町教会の親子 30 名程度を放射能の心配のないところで遊ばせたいとの願いをかなえるため招待する。宿泊場所: 愛徳姉妹「ナザレの家」「カナの家」、滞在中 3 日~5 日は神戸地区の合同キャンプに参加する。費用: 交通費、食費、滞在時諸経費などカリタスジャパンより援助の可能性はあるが、未定。

・神戸地区司祭・修道者の集い

-人事異動が行われ、新任の神父様たちが出揃ってから新生計画の振り返りを実施、その趣旨を踏まえ北ブロックの活動強化、神戸地区各委員会の担当司祭を決める。

・神戸地区日曜学校合同キャンプ

-8 月 3 日~5 日 愛徳小学校の校庭が有力、中ブロックは堅信式の準備で不参加。その他教会の参加者を募る。医療スタッフ (医師、看護師) の参加もお願いしたい。六甲はリーダーが参加予定。費用は神戸地区 2012 年度予算から充当可能か、カリタスジャパンからの支援及び来年度繰越金、予備費の使用等も不明のため、次回評議会にて募金をおこなうかどうかを決める。

・2012 年度平和旬間行事

-社会活動委員会より福島原発事故を踏まえ、原発やエネルギー政策についての映画「祝の島」「ミツバチの羽音と地球回転」という映画上映の提案がなされた。8 月福島の親子が来られるので、その時に震災の体験談を聞く講演会実施も提案され、5 月の評議会にて最終決定することになった。

・神戸地区大会 (2013 年 6 月 9 日開催) の準備委員会について

-各教会より 2 名委員を早急に選出依頼あり。第 1 回委員会は 3 月 25 日 (日) 14:00~垂水教会。

・養成委員会 -来期養成コースは聖体奉仕と基礎のコースを実施する予定。

-結婚準備セミナーの 2012 年度計画の説明と申し込み要領の説明。

・社会活動委員会

-シナピス学習会「いのちをつなぐ」、「なぜ、こうのとりのゆりかご (赤ちゃんポスト) を作ったか」蓮田太二 (聖粒会慈恵病院理事長) ほか 3 月 18 日 8 日 (日) 13:00~垂水教会。

-「2012 年度実施の改定入管法と外国人住民」学習会 3 月 25 日 (日) 14:00~ 兵庫教会

・青年委員会

-2 月 26 日ハグハウス現地報告会が神戸中央教会で開かれ、「テゼの祈り」と「市民クリスマス」で集められた募金を直接手渡した。

・その他

-エキュメニカル担当 神戸市民クリスマスは 12 月 14 日 (金) 17:00~神戸中央教会で開催。

・次回地区評議会は、5 月 6 日 (日) 14:00 明石教会。

(2) 「大船渡ボランティア派遣」の進捗報告 (川越)

・3 月 27 日 (火) ~3 月 31 日 (木) 4 泊 5 日、場所: 大船渡ベース “地の森憩いの家”、参加者 12 名の予定。

- (3) 「福島の子供招待プロジェクト」の進捗報告（片柳神父）
- ・親子含め 30 名予定、プラス 10 名の可能性もあり、神戸地区での負担金およびカリタスジャパンの支援金等未定。3 月 25 日次回評議会にて人数及び最終負担金決定予定。
- (4) 「初聖体・祝福式」について（教会学校）
- ・4 月 15 日（日）10:00 ミサにて初聖体・祝福式実施。
-お祝いパーティーはイグナチオホールにて開催、母親がパーティーの準備を実施。寄贈品（ジュース、お菓子）を募りたい。
- (5) 「オルガンメデイテーション」について（馬場）
- ・4 月 8 日（日）復活の主日ミサ終了後、主聖堂にて開催、入場無料（東日本大震災支援献金を実施）
- (6) 「聖週間の典礼」について（橋）
- ・4 月 1 日（日）受難の主日 10 時のミサで枝の行列を実施、枝の準備は 3 月 30 日。行列は子供達に加わってもらう。
 - ・4 月 5 日聖木曜日 洗足式を実施、被洗足者は 12 名（洗礼を受けた子供達）
 - ・4 月 7 日（土）復活の徹夜際 光の祭儀は外から入場、ロビー、聖堂は一時点灯。
 - ・4 月 1 日（日）代父母に対し、洗礼式の流れ確認及びリハーサル予定。
- (7) 地区役員からの報告（橋岡）
- ・各地区 24 年度連絡網は各地区が 23 日までに事務所に提出し、準備が整えば 23 日（金）～4 月 8 日間に「24 年度教会のしおり」と「24 年度地区連絡網」を配布実施。
 - ・地区役員交代 「24 年度教会のしおり」P12 に記載。
- (8) [評議会の一部役員交替]について（蛭田）
- ・評議会の役員交代 「24 年度教会のしおり」P12 に記載。
- (9) その他
- ・「教会のしおり」について（藤井）
-23 日より配布されるが、訂正箇所があれば連絡いただきたい。正誤表を「教会のしおり」に挟むことで対応。
 - ・黙想会について（佐久間）
-24 年度はコリンズ神父様に依頼、了承された。（年 2 回）第 1 回目の黙想会は 5 月 26 日（土）。
 - ・神戸地区広報誌「つながり」について（藤井）
-神戸地区全体への報告・情報提供希望の場合は奇数月の第 2 週までに原稿を提出頂きたい。
 - ・教会報原稿締めについて（藤井）
-教会報は最終日曜日に翌月分を配布、原稿締めは最終日曜日の前週日曜日。

2. 協議事項

- (1) 「平成 24 年度小教区評議会予算」について（河野）
- ・予算案提示され了承された。下記事項にのっとり実績処理とすることとする。
 - ・処理伝票には必ずコードを記載すること。
 - ・行事部は地区会に統合されたため、行事部予算は地区会予算に移管。行事部コード G は欠番とする。
 - ・各部においても帳簿（入出金）を記載、定期的に財務部帳簿と照合する。
- (2) 「平成 25 年度神戸地区大会準備委員会」のメンバー選出について（蛭田）
- ・別途、早急に選出することとする。

六甲教会メール連絡システムについて

六甲教会では昨年4月よりメールシステムを導入し、教会からの連絡や地区毎の連絡に使用しております。2月15日現在の登録数は677件（配信可能なアドレスは594件、エラー件数は83件）となっております。

メールアドレスをお持ちの方にはぜひ登録をしていただきますようお願いしております。ご家族の中で個々にアドレスをお持ちの方はみなさんそれぞれ登録してください。また一人で複数のアドレスをお持ちのかたはすべてのアドレスを登録して下さっても構いません。少しでも連絡にかかる時間と手間を短縮し多くの方に速くに連絡ができるようにご協力お願いいたします。

登録方法

p-rokko@t.bme.jp に空メール（件名、本文など無しのメール）を送信してください。返信されたメールの指示に従って登録してください。

または右のQRコードを携帯カメラで読み取り、登録サイトにアクセスして指示に従って登録してください。その際にご自身のメールアドレスの入力をお間違えの無いようご注意ください。

ご自身での登録が困難な方は事務所に登録依頼用紙に記入の上ご提出ください。担当者が登録させていただきます。



登録済みの方でメールが届かない場合

ご自身で登録された方及び昨年春に提出された地区会アンケートにアドレスを記入していただいている方でメールが届かない方は以下の原因が考えられます。

1. パソコンからのメールを拒否している。（携帯機種変更した場合はよく起こります。）
2. 「なりすましメール」として判断され受け付けられない。
3. サーバーがいっぱいになっていて受け付けられない。
4. 迷惑メールと判断されて別フォルダーに入っている。 など

教会の連絡メールは次のアドレスから発信されます。

mail-renraku@rokko-catholic.jp

携帯メールの方はこのアドレス又はドメインを指定受信できるようにしてください。ご自身での変更が難しい場合は携帯電話店へ持参されてお店の方にお伺いください。

PCメールの方は迷惑メールとして振り分けられていないかをご確認下さい。またサーバーの容量によりましては満杯になってしまい拒否されるということもありますので、不必要なメールをサーバーから削除して容量を増やしていただきますようお願いいたします。

地区会メールシステム担当

～．．．～

<行事報告>

『十字架の道行き』（3月2日）



四旬節を迎えた初金曜日、恒例の初金ミサに続いて十字架の道行きが実施された。初金曜日のミサ後ということも相俟って、100名近い信徒の方々が十字架の道行きに参加した。

今年の十字架の道行きは、特別に「日本の癒しのための十字架の道行き」と題した東日本大震災の犠牲者の方々、その他大勢の被災者の方々、困難を強いられている方々のために寄せられた祈願を唱えながら道行きをしている。

これほど大勢の信徒の参加した十字架の道行きは、ヨハネ・パウロⅡ世訪日の頃の教会を彷彿させられた。

“祈り”一人で祈る祈りも良いが、大勢方と一緒に一つの目的を持ちながら祈る祈りは、また格別な

ものを感じさせられることに改めて感動した。この同じ感動を主日のミサで感じなければならない、にもかかわらず感じていないということは、主日のミサが何処かマンネリ化、儀式化しているのではと気づかされた。

同じ思いをされた方もいたでしょう。この気づきを与えてくれたことに感謝すると同時に、十字架の道行きを通して、ミサの大切さを改めて教えられた。

今年、この特別な年、十字架の道行きの祈りを通して戴いた恵みは、一人の祈りも良いが、みんなで祈る祈り、天の父に届くほどの力強い祈りを大切にしたい、否、大切にしなければ、と改めて認識したことであった。

主任司祭 松村信也



~~~~~

## 《 各部だより 》 各専門部会の活動をお知らせいたします

### 三日月会

4月16日(月)例会

### 教会学校

4月14日(土) 入学式・始業式

### 壮年会

4月22日(日) 総会

### 地区会

4月1日(日) 役員会

### 中高生会

4月より中高生会のリーダーが交代します。

佐藤・久保・吉村・本郷

よろしくお願ひします。

通常クラスは毎週日曜日 10時ミサから始まり、ミサ後は13時頃まで活動します。4月1日(日)より毎週活動します。

4月7日(土) 復活祭タマゴ作り

4月8日(日) 復活祭タマゴ配布

4月15日(日) 中高生会始業式

5月6日(日) ゴールデンウィークのため  
お休み

### 宣教部

4月28日(土) 10:00 部会

### 社会活動部

6月1日(金) 初金10時ミサ後、連絡会

### 広報部

4月28日(土) 教会報5月号発行

### 施設管理部

4月22日(日) 部会

~~~~~

《 お知らせ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

4月 4日(水) 10時 ♪手芸の集い

14日(土) 10時 ♪炊き出し(イグナチオお台所) その後、小野浜公園へ移動

22日(日) 10時ミサ後 ♪ふれあい広場(イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品・有機野菜、東北の物産等の販売

23日(月) 9時半 ♪ともしび会(お台所) 養護施設の子供たちの為のケーキ作り



★典礼部より★

～～ 4月1日（日） 受難の主日 ～～

10時 枝の行列のミサ

今年は子供たちが、司祭・奉仕者と一緒に入堂行列に加わります。

雨天の場合、イグナチオホールから出発します。

ミサの中で、集会祭儀司式者・聖体授与の臨時の奉仕者任命式があります。

10時ミサ終了後 「受洗者代父母の準備会」 主聖堂

復活徹夜祭の洗礼式がスムーズに行われるよう、代父母をなさる方と、祭壇奉仕者が洗礼式の具体的な流れをあらかじめ確認します。

13時半～ 「聖なる過越しの三日間の準備会」 主聖堂

★教会学校より★

～～ 初聖体・祝福式パーティーのための寄付のお願い ～～

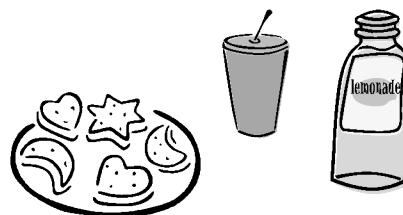
来る4月15日(日)に初聖体・祝福式がありますが、その後に教会学校主催でお祝いのパーティーを行います。初聖体・祝福を受けるのは子どもにとって大きな喜びです。教会のみなさまにも心をこめてお祝いをしていただければ幸いです。

そこでパーティーを行うに当たっての当日に必要な物の寄付を募りたいと思います。ご寄付いただける方はリーダー室前に箱を用意しますので、準備の都合上4月7日(土)までにお持ちください。

尚リーダー室は信徒会館2階主任司祭室の前にあります。

○寄付をお願いしたいもの

お菓子、ジュース(ペットボトル)、お茶(ペットボトル)
割り箸、紙コップ、紙皿、紙ナプキン



お菓子・ジュース・お茶につきましては、賞味期限に注意してお願いいたします。

■ 祝福式について

当教会の教会学校には未信者の子どもたちが約半数在籍しています。初聖体を3年生で受けるため2年生の1年間みんなで準備をします。この準備の中で、キリスト教の教えの中でも特に大切だと思われる部分について学びます。信者の子どもたちは初聖体を受けますが、洗礼を受けていない子ども達も同じように神さまのことを学んできましたので祝福という形でミサに与ります。

初聖体・祝福式は、教会学校の節目として、目に見える形で記憶される行事であり、この体験を通して、子ども達は、大きな共同体の中でさえ、一人一人が大切にされていることを実感します。子ども達が初聖体・祝福の区別なくお祝いを受けることが出来るよう、ご協力をお願いいたします。

教会学校2年生担当リーダー

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

”墓地っ子だより”

春の墓参りが3月11日に行われました。やや寒いものの雨も無く墓参日和となりました。前日までに雑草抜きや手摺の塗り替えが完了し、気分のいいお墓参りをさせていただけたと自負しております。納骨は12柱で今までの最多となり、最近の傾向で墓地からの転入が半数を占めました。

子供に迷惑をかけたくない、後継者が居ない、遠隔地のため管理が出来ないなどの理由で墓地を返

還される方が目立ってきました。これは非常に理にかなった方法と言えます。共同墓地では年2回の教会墓参がありますので放ったらかしはありません。納骨、生前刻銘の合計は200人ほどですので供花の絶えることはありません。

すでに納骨された遺骨の処理、墓石の処理、共同墓地への転入費用などご不明なことがあれば墓地委員に相談してください。

今後の整備：段差の高い通路脇の手摺を設置します。御気付きの点があれば何なりとお知らせください。



墓地委員会 SF

📖 **図書室からのお知らせ** *****

これまで教会事務室にお願いしていた図書の貸し出し・返却の手続きがかわりました。図書室へ入るとすぐ左側の棚に貸し出しノートがあります。そのノートに必要事項を記入して借り出して下さい。また返却するときに、ご自分でノートに返却印を押して下さい。ご質問・ご意見・ご希望がありましたら、図書室の「ご意見箱」にお願いいたします。図書室では、皆様のご利用をお待ちしております。

3月の購入図書

☆ なぜ教会は社会問題にかかわるのか —日本カトリック司教協議会 社会司教委員会編
すべてのキリスト者は、人となって世のためにご自分を与えてくださった神の子キリストの生き方を基本とし、その福音を神の愛と救いの力として人々に伝え、それによって人々と社会が内面から変えられるように働きかける使命を与えられています。実際の発言や行動には賢明さが求められるとしても、聖職者は教会が社会問題に直接かかわることについて信者に教える責務を与えられています。・・・
(社会司教委員会委員長「はしがき」より)

☆ キリシタン時代の司祭像に学ぶ —日本カトリック司教協議会 常任司教委員会
福者ペトロ岐部司祭と187殉教者に含まれる4人の司祭に注目して、現代に生きる指針とし、また司祭を育てる務めを持つ信徒にあてた書。

☆ 新・人間の戦場 — 広河 隆一 デイズジャパン
「ぬるま湯につかってきたこの国では、人は見たくないものを見ようとしません。・・・戦後と思っていたら、いつの間にか次の戦争が準備されていて、戦前になるのと似ている。」

人間の生存と尊厳が脅かされているその場所を「人間の戦場」と呼び、フォトジャーナリスト広河隆一氏の軌跡をたどる写真集。パレスチナ・イラク・アフリカ・アフガニスタン・チェルノブイリ・津波・福島の実況に向けたカメラは私たちに語りかける。

☆ 生きるってうれしいなあ — 福井 達雨
止揚学園のリーダーとして80歳の今も障害者福祉の在り方を問い続ける福井達雨先生の教育エッセイ。

☆ 二人三脚 — 三浦 光世
『氷点』をはじめとする多くの名作を残した三浦綾子氏との出会いから最期に至るまで、夫婦二人三脚の道のり。夫婦の深い愛情が感じられる1冊です。

☆ 大木神父 奮戦記 — 江口 美由紀 小学館
特攻志願の若者が復員して神父に。六甲学院・栄光学園・広島学院で教鞭をとり、50歳過ぎのある日突然キリスト教禁教の国ネパールへ。ポカラという町で障害児教育に携わり30数年。その半生を語り下ろす。

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～

聖なる過越しの三日間の祭儀

カトリック信仰の原点です。
三日間の祭儀に参加しましょう。
なお、この三日間は朝7時のミサはありません。

4月5日(木) 聖木曜日 19時 主の晩餐のミサ

聖体が小聖堂に安置されますので、ミサが終わりましたら静かに退出して下さい。
しばらくの時間、小聖堂に安置されたご聖体の前で沈黙のうちに祈りますので、
外に出たあとも大声を慎み、小聖堂に戸外での話し声が響かないようご配慮を
お願いいたします。

4月6日(金) 聖金曜日 19時 主の受難の祭儀



4月7日(土) 聖土曜日 19時 復活徹夜祭ミサ

ミサ中、洗礼式があります。
受洗者、代父母の方は18:30までにイグナチオホールにお集まり下さい。
雨天の場合、光の祭儀はイグナチオホールから出発します。

聖週間中、特に4月7日復活徹夜祭は、駐車場がたいへん混雑します。
できるだけ公共交通機関をご利用ください。



みんなの広場

「神を観ることについて」

ヨハネ 三好 榮之助

岩波文庫にクザヌスの「神を観ることについて」がある。岩波文庫にはお門違いのように感じるが門脇佳吉訳の「霊操」があるから不思議ではないかもしれない。

この「神を観ることについて」を読んで、「群盲像を撫づ」の喩えが思い浮かんだ。一人一人に誤りはない。誤りは自分の知ったことが全体であり正しいとして譲らなかつたことにある。その結果誰一人全体を知ることができなかつた。

私たちは神の全体を観ることはできない。信仰の歴史は争いの歴史だと言える。時には血を血で洗う愚さえしながら、少しずつ啓示を理解してきた。今もそうだしこれからもそうだろう。自分が観たものだけがすべてだとして譲らないことが原因ではないか。教会報に連載されている松村信也師の「キリスト教基礎シリーズ」を読んでいてクザヌスを思い出した。(この連載は出色のものだ、読み捨てるのはあまりにも勿体ない。)

私たちは大気に包まれて、大気の中で生きている。それでも大気を意識することはない。「神は遍在し、すべての被造物に内在する」という命題がある。私たちは神に包まれ、神の中に生きている。が、神を意識することはない。幼児洗礼であっても、長じて信仰を得た者はなおさら、反信仰の社会にあって知識の信仰に陥りやすい。神のすべてを観ることはできない、知的ばかりではなくこの身で神を体感して生きることが欠かせない。どうして実現するかそれぞれ環境の中で考えなければならない、どうしようか。

8日にわたしたちは主のご復活を祝う。ご復活に我々の知識は及ばない。

「一タラントンを二タラントンに」

佐久間 肇

私にとって生まれてから 57 回目となる 2012 年のお正月は特別なものでした。

その日、私は、遠く離れた東京に家族がいるため、西宮にある老人ホームで普段から一人でさびしい思いをしている伯母のもとをたずねました。

正月に老人ホームへ行ったのは初めてですが、結構訪問客がいて、思ったよりにぎやかでした。そんな中、孤独な思いをしていた伯母は私の訪問をととても喜んでくれました。そして、たくさんお話をして二人ともとても楽しいお正月を過ごすことができたのでした。

両親を亡くし、たった一人の家族である兄も初めてお正月帰ってこられないということで、実は伯母だけでなく私自身も生まれて初めて一人だけの正月を迎えるはずでした。ひとりぼっちの人のところへひとりぼっちの人が訪ね、そして二つの「孤独」が二つの「喜び」に変わる。実はそんな経験をした特別なお正月だったのです。

典礼奉仕者の集いでマタイ福音書の「タラントン」のたとえの箇所を用いて分かち合いをしました。旅に出る主人から 1 タラントンを預かったしもべが、安全策をとってそのお金を地中に埋めて増やさなかったため主人からしかられ、その上その 1 タラントンも取り上げられて、リスクをおかして商売し、預かった 5 タラントンを 2 倍にしたしもべに与えたという内容です。タラントンはお金の単位ですがタレント（能力）の語源でもあります。神様が、少ししか能力を与えられていなかった人を非難し、多くの能力を与えられた人を賞賛している点や、安全策をとった人が非難され、リスクをとった人が賞賛されている点など、このたとえ話は企業に勤めていた男性を中心に理解しにくいようです。

しかし、1 タラントンというお金が年収の 20 倍であるという値打ちであることからこのたとえ話を読み直してみると、別の見方ができると思います。

タラントンは神様のめぐみではないでしょうか。めぐみを自分のためだけでなく、他の人と分かち合うことによって減るどころか 2 倍、3 倍と増えていくのです。神様のめぐみは分かち合うことによって必ず増えるという神への信頼を語っていると思います。今年のお正月に私が体験したことは、孤独すらも神様のめぐみであるという「孤独のめぐみ」ということができます。さらに 1 タラントンを 2 タラントンに増やすにはどうすればよいか学んだような気がします。



♪♪♪♪♪♪♪♪♪ イースターチャントへのお誘い ♪♪♪♪♪♪♪♪♪

辻オルガンが私たちの教会に移設されて早2回目の復活祭を迎えます。

オルガンチームでは、昨年より、音楽と祈りの集い「オルガンメディテーション」と称する、聖書朗読や教会暦にちなんだ音楽を味わう活動を行っています。

さて、2012年度オルガンメディテーション第1回は「イースターチャント～復活の喜びをみなさんとともに～」を開催いたします。当教会信徒の中でもプロとして活動しているメンバーを中心に、聖書朗読とともに音楽で御復活を祝います。今回はバロックバイオリニストとして活躍中の大津睦さん(芦屋地区)

の演奏、浅野純加さんの独唱、また聖歌隊メンバーを中心としたカンターテドミノの合唱で、主の復活のシーンをメンデルスゾーンの音楽とともに楽しみてください。



画：鈴木 肇

EASTER CHANT 2012

～復活の喜びをご一緒に音楽で祝いましょう～

- 日 時： 平成24年4月8日(日) 復活の主日10時ミサ終了後～
入場無料
- 場 所： カトリック六甲教会 主聖堂
- 出 演： ヴァイオリン：大津睦
ソプラノ：浅野純加
アルト：山口暁子
オルガン：三浦優子、清水真理子、松井公子
コーラス：カンターテドミノ
- 曲 目： バッハ 通奏低音付きバイオリンソナタ BWV1021
バッハ マタイ受難曲より Erbaume dich
ヴィバルディ グロリアより Domine Deus
メンデルスゾーン 3つのモテットより よき羊飼いはよみがえりぬ
バッハ Komm, Heiliger Geist, BWV 651 など



教会報5月号の発行は、4月29日(日)です。
編集会議4月22日(日)です。
記事原稿は、4月15日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
〒657-0061	神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話	0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6
F A X	0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3
発行責任者	松 村 信 也
編 集	広 報 部